



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所名
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日~平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,076	△10.7	△125	—	△129	—	△137	—
23年3月期第3四半期	2,325	—	△222	—	△236	—	△277	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △148百万円(—%) 23年3月期第3四半期 △307百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△3,511 55	—
23年3月期第3四半期	△6,979 51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	1,112	99	7.1
23年3月期	1,239	262	18.0

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 79百万円 23年3月期 223百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
24年3月期	—	0 00	—		
24年3月期(予想)				0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,100	4.5	24	—	14	—	0	—	0 00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	43,947株	23年3月期	43,947株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	4,985株	23年3月期	4,685株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	39,179株	23年3月期3Q	39,779株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を受けて後退した後、緩やかに持ち直しはじめましたが、欧州の債務問題に加えて円高の進行等で、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループにおきましては、引き続き、ライフスタイル産業における事業再生として、既存子会社の育成及びグループの成長戦略に注力いたしました。

セグメント別には、次のとおりであります。

ヒロタ事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、イタリアのファッションブランドとのコラボレーションによる、テイストとパッケージデザインをより追求した高単価のシュークリーム等のオリジナル新商品にてご好評をいただきましたが、原材料の高騰等により、利益率の確保が課題となりました。また、クリスマス商戦におきましては、クリスマスケーキの先行予約販売に注力したことにより、前年実績を大きく上回る売上を確保することができました。しかしながらホールセール部門の伸長が予定を下回り、売上利益は目標に及びませんでした。現在、工場での生産体制の見直しを行い、納品時間を一部変更することにより、取引先の拡大に取り組んでおります。

なお、第3四半期連結累計期間末の直営店舗数は、38店舗となりました。

以上により、売上高は1,276,943千円（前年同期比△2.8%）、営業損失34,839千円（前年同期31,939千円の営業損失）となりました。

イルムス事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、年間最大商戦であるクリスマス商戦を早期10月中旬に立ち上げました。特にイルムスのオリジナルとして開発したクリスマス商品は、一部11月で売り切れが出るほどお客様のご支持をいただきました。また、法人需要も回復し、サントリーとのコラボレーションや、和真メガネ店舗でのイルムス仕様の眼鏡の販売開始、東京建物のマンションコーディネート等に取り組みました。一方でフランチャイズ店舗の契約終了もあり、引続き経費の削減に努めましたが、売上高は798,661千円（前年同期比△21.0%）、営業損失は35,742千円（前年同期122,021千円の営業損失）となりました。

当第3四半期連結累計期間末の直営店舗数は8店舗、フランチャイズ店舗は3店舗となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,076,292千円（前年同期比△10.7%）、営業損失125,296千円（前年同期222,344千円の営業損失）、経常損失129,296千円（前年同期236,456千円の経常損失）、四半期純損失は、137,578千円（前年同期277,637千円の四半期純損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ126,029千円減少し、1,112,981千円となりました。これは、流動資産が27,469千円、固定資産が98,559千円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ37,188千円増加し、1,013,931千円となりました。これは主に、固定負債において長期借入金が32,861千円、その他が28,654千円減少したものの、流動負債において買掛金が57,071千円、未払金が24,445千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ163,218千円減少し、99,049千円となりました。これは主に、株主資本において利益剰余金が137,578千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成23年5月13日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、当第 3 四半期連結累計期間において売上高2,076,292千円、営業損失125,296千円を計上しておりますが、ヒロタ、イルムス両事業において経営改善計画を推進した結果、前年同四半期連結累計期間と比較して営業損失が97,048千円改善しております。

当社グループは、更なる改善を図るために以下の施策について全力を挙げて取り組んでおります。ヒロタ事業におきましては、引き続き主力商品であるオリジナルシュークリーム・シューアイスにおいてコラボレーション等による新商品の開発や、クリスマス等のイベント商品の販売拡大の実施等さまざまな取組みを行っております。また、ホールセール部門におきましては、生産体制の見直しを行い、納品時間を一部変更することにより、取引先の更なる拡大を進めてまいります。

イルムス事業におきましては、「シーズン商品の収益率の改善」「オリジナル新商品開発」「定番商品の活性化」に注力することにより商品回転率を向上させると共に、ブランド力を生かしたブランド監修及びコラボレーション企画の開拓に努めております。これらの取組み効果により連続単月黒字化を達成することができました。また、今後はネット販売にも注力し、特にイルムスクラブ会員へのよりきめ細やかな情報発信等により売上拡大努力を進めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	293,396	194,523
売掛金	180,851	255,342
商品及び製品	140,025	131,886
仕掛品	1,431	1,867
原材料及び貯蔵品	23,097	29,800
その他	19,524	18,346
貸倒引当金	△1,900	△2,810
流動資産合計	656,427	628,957
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	208,490	193,843
土地	79,937	79,937
その他	118,479	94,192
有形固定資産合計	406,907	367,972
無形固定資産		
のれん	—	3,316
その他	37,718	14,101
無形固定資産合計	37,718	17,417
投資その他の資産		
投資有価証券	37,788	12,329
その他	105,419	90,804
貸倒引当金	△5,250	△4,500
投資その他の資産合計	137,957	98,634
固定資産合計	582,583	484,024
資産合計	1,239,011	1,112,981

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	165,299	222,371
短期借入金	51,600	46,751
1年内返済予定の長期借入金	45,902	51,863
未払法人税等	13,687	10,183
未払金	278,993	303,438
未払費用	77,005	74,486
資産除去債務	1,137	1,360
その他	57,091	80,358
流動負債合計	690,715	790,812
固定負債		
長期借入金	61,027	28,166
負ののれん	852	—
長期末払金	114,676	107,657
資産除去債務	19,834	26,313
その他	89,637	60,983
固定負債合計	286,027	223,119
負債合計	976,743	1,013,931
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	493,387	493,387
利益剰余金	△268,658	△406,237
自己株式	△102,420	△103,923
株主資本合計	222,308	83,226
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	757	△3,650
その他の包括利益累計額合計	757	△3,650
少数株主持分	39,201	19,473
純資産合計	262,267	99,049
負債純資産合計	1,239,011	1,112,981

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
売上高	2,325,237	2,076,292
売上原価	1,245,162	1,048,820
売上総利益	1,080,075	1,027,471
販売費及び一般管理費	1,302,419	1,152,768
営業損失 (△)	△222,344	△125,296
営業外収益		
受取利息	79	10
受取配当金	700	595
負ののれん償却額	1,172	852
貸倒引当金戻入額	—	750
その他	2,205	403
営業外収益合計	4,158	2,611
営業外費用		
支払利息	10,438	6,289
株式交付費	6,944	—
その他	887	322
営業外費用合計	18,269	6,612
経常損失 (△)	△236,456	△129,296
特別利益		
投資有価証券売却益	9,985	1,749
固定資産売却益	—	257
その他	5,529	—
特別利益合計	15,515	2,007
特別損失		
災害による損失	—	769
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	67,821	—
店舗閉鎖損失	2,112	—
減損損失	—	2,854
その他	4,044	681
特別損失合計	73,977	4,306
税金等調整前四半期純損失 (△)	△294,918	△131,595
法人税、住民税及び事業税	9,984	10,106
法人税等調整額	1,831	2,494
法人税等合計	11,815	12,600
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△306,734	△144,196
少数株主損失 (△)	△29,096	△6,617
四半期純損失 (△)	△277,637	△137,578

四半期連結包括利益計算書
第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△306,734	△144,196
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△907	△4,408
その他の包括利益合計	△907	△4,408
四半期包括利益	△307,642	△148,604
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△278,545	△141,987
少数株主に係る四半期包括利益	△29,096	△6,617

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第 3 四半期連結累計期間(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,313,470	1,010,468	2,323,938	1,298	2,325,237	—	2,325,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,313,470	1,010,468	2,323,938	1,298	2,325,237	—	2,325,237
セグメント利益又は損失 (△)	△31,939	△122,021	△153,960	1,298	△152,662	△69,682	△222,344

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△69,682千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第 3 四半期連結累計期間(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,276,943	798,661	2,075,604	688	2,076,292	—	2,076,292
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,276,943	798,661	2,075,604	688	2,076,292	—	2,076,292
セグメント利益又は損失 (△)	△34,839	△35,742	△70,582	688	△69,894	△55,401	△125,296

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△55,401千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ヒロタ事業」において、主に店舗の閉鎖が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第 3 四半期連結累計期間においては2,854千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。